

上場機に生活支援の総合商社へ



ジェイリース CEO 代表取締役社長

中島 拓氏

- ① ちらし寿司
- ② 将棋(三段)
- ③ 「真田丸」

家賃債務保証業務を手掛け、業績を

伸ばし続けているジェイリース。昨年6月、東京証券取引所マザーズへの上場を果たした。地場企業の上場は11社目。「社会への責任をいっそう強く感じるようになった。大分の企業としての誇りを胸に、成長を加速させていきたい」とさらなる飛躍を誓う。

2004年の創業から13年目。不動産の賃貸借契約で家賃滞納時に代位弁済する同社のビジネスは、少子化、高齢化や核家族化などを背景に、連帯保証人に代わる「機関保証」のシステムとして認知を広めてきた。

現在は東京・大分の2本社制を敷き、全国に20支店のネットワークを張っている。今年は北海道、中四国地

方に支店を開設する計画だ。

単身世帯に占める高齢者の割合が大きくなる中、家賃保証だけでなく、見守りや配食、遺物整理など、衣食住を支える「生活サポートの総合商社」を目指し、賃貸契約時にさまざまな生活支援も契約できるワンストップサービスの商品開発を急いでいる。

昨年はクレジットカード会社との業務提携を始め、他業種との協業を進展させた。

上場を実感するのは「社会的信用、知名度が高まり、各分野で活躍する企業との提携ビジネスが可能になった」と言う。「情報公開や株主総会など、上場企業ならではの厳しさはあるが、信用力と成長性を認められたということ

と。数年で次のステージに上がりたい」と右肩上がりの業績に社員の士気も高まる。ビジネス拡充にマンパワーの強化は必須で、「今後は一人一人が能力を上げ、各業務のスペシャリストから何でもできるゼネラリストを目指してほしい」と期待する。

出張で年間100回は飛行機に乗るという多忙さだが、大分から本社を移すことは考えていない。「大分の企業市民として、雇用と納税で地域貢献を続けていく」。見事にJ2昇格を果たした大分トリニータのスポンサーも継続。揺るぎない地域密着の信念がジェイリースの成長をけん引する。



株式上場セレモニーで打錘に使った木づち